

イスラームの不思議。
人々を救い、人々を導く
宗教と文化の深い広がり。
自分の目で見て確かめよう。

世界で14億人が信仰するイスラームの世界とはいったいどんな価値観を持つところなのだろう。
わずか百年の間にスペインからインドまで広がった謎。アラビアン・ナイトの不思議な妖怪。厳格のようであり、ときに寛容でもある戒律。
超難解のアラビア語を駆使し本当のイスラームの歴史と文化に迫る清水先生の研究室にようこそ。

エジプトからヨルダン、
そしてブルネイ。
イスラームの世界は広い。

清水先生は大学でアラビア語を学び、さらに大学院では人類学の観点からイスラーム教徒の社会を研究。

大学4年のときには、サダト政権時代のエジプトに約一年留学し、さらに大学院に在籍中、86年から88年までは、ヨルダン北部の村に滞在してフィールドワークをしている。「当時は詳しい文献もほとんどなく、恩師の影響もあって、やっぱり現地に着した研究をやりたかった。さ

らに2000年から2001年にはブルネイでマレー人のイスラーム教徒の村に暮らしましたが、そこでは私がずっと考えていたイスラーム観がもの見事にひっくり返った。イスラームの世界は本当に広いのです」ブルネイは人口約30万人、首相である王様は国防相と財務相と軍の最高司令官を兼ね、さらに一つしかない国立大学の総長でもある。インドネシアのアチェとともに、東南アジアではもっとも早く、交易を通じてイスラームが伝わったといわれ、ま

風土で生まれた宗教。クルアーン(コーラン)には『水が豊富で果物がたわわに実り、それを食べていいのだ』という天国の記述がありますが、ブルネイに行くと、実際にそういうところ(笑)。私が借りた家の庭にはバナナ、ドリアン、オレンジ、マンゴーがとても食べきれないほどなっていた。東南アジアでは餓死者が出ないというのがよく分かります」そのブルネイではイスラームの戒律が、中東では考えられないほどゆるかった。

同席していた。アラブでは花嫁は別の場合にいて、そこにサインをもらいにいく。結婚式前には男女は顔を合わせては絶対にいけません」清水先生はそのブルネイとヨルダンの比較を、博士論文にまとめている。ところで清水先生の研究室に入ると、壁や棚には不思議なものがたくさん。聞けば、それらは世界各国から集めた妖怪や魔よけだという。「実は私は世界中の妖怪の研究をしていて、特にイスラーム世界の民間信仰を研究テーマとしています」アラブ世界の場合は、民間信仰的

ず王様自らが改宗した。

「でもイスラームはもともと厳しい

「何が驚いたかといって、結婚式の

「何が驚いたかといって、結婚式の



清水 芳見 (しみず よしみ)

東京外国語大学アラビア語学科卒業。東京都立大学大学院社会人類学専攻博士課程修了。社会人類学博士。ヨルダン・ハーシム王国ヤルムーク大学客員研究員、ブルネイ王国大学客員研究員歴任。著書に『アラブムスリムの日常生活』『文化人類学講義』ほか。



大学で基礎演習のテキストにもなっている著書『イスラームを知ろう』(岩波ジュニア選書)

なものみんな、イスラーム的な解釈が施されてイスラーム化されている。クルアーンには妖怪ジンというものがあるので、煙のない火から創造されたものという程度のことしかそこには書かれていない。アラビアン・ナイトのランプの精もこのジンにあたる。

「ジンにははっきりしたイメージはないわけです。私はイスラーム妖怪流布説、というのを唱えているのですが、つまりこの妖怪があったからこそ、イスラームは広まったのではないかと。異端の神々はどんなものでもジンとして取り込めたのです。神

はアッラーしかいない、しかしジンは多様であっていい。ヨルダンを調査したときにジンの絵を描いて欲しいという人も描けなかった。ブルネイでは、イスラーム以前のマレー独特の妖怪は描けるといいます。日本の幽霊にそっくりなものもいました」

世界でもっとも難しいといわれるアラビア語に挑戦してみる

総合政策学部のアラビア語授業は、1年生では週に3コマ。清水先生はそのうち2コマを、残りの1コマはインド人のハーン先生が教えている。2年生と3年生のそれぞれ週2コマも、二人の教員が分担する(2008年取材時)。

「ハーン先生は、日本のイスラーム指導者のなかの第一人者で、日本のマッカ(メッカ)巡礼団の団長です。断食月になると、東京タワーや都庁で月を観測しますが、最近のNHKの番組にはいつも彼が出演し



映像教材が始まると教室の雰囲気がガラリと変わる。

ています」
アラビア語は世界でもっとも難しい言語といわれるが、
「なぜかという、我々が学んでいる正則アラビア語はクルアーンの言葉。国連の公用語にはこれが使われ

ています」
アラビア語は世界でもっとも難しい言語といわれるが、
「なぜかという、我々が学んでいる正則アラビア語はクルアーンの言葉。国連の公用語にはこれが使われ

ますが、実際に人間が話しているアラビア語ではない。一般の話し言葉は地域によっても異なる。エジプトの北と南ではアルファベットの発音も違います」
数え方で違うが、アルファベットは大体28くらい。ただ一つの動詞が26通りに変化するので、動詞の活用だけは頭が痛いと言ってしまう。学生は教科書を使つての文法を全部終わると、1年の12月頃からはやさしいテキストが読める。3年が終わると辞書を使つて、新聞が読めるかどうか、というレベルになる。

「しかしそのテキストには誤りがとても多いので、気をつけろと学生には言っている(笑)。文盲率はエジプトでは約7割、ヨルダンでは自分の名前が書ければ文盲とはされない。アルカイダの声明文にも文法的な誤りがありました。現地

の大学でも、学生たちにとって一番大変なのはアラビア語の授業だといえますから」
そんな難解なアラビア語だが、高校2年のときに、人があまりやらない言語を学ぼうと選んだのが清水先生である。
「社会的にはとても需要のある言葉なのです。学生のドロップアウトが多いので、アラビア語のできる人間の希少価値はなかなか下がらない。でも日本人のアラビア語学習者には優秀な人が多いですよ」
先生はほかには「文化人類学Ⅱ」や「地域研究方法論」の講義も担当。「学生が文化人類学に興味を持った理由は、全然知らない民族の話聞いてもつまらない、ということ、私たちは総合政策学部にあつた内容にしています。できるだけ現代的なものをテーマにして、またアイヌや沖縄など日本の民族問題も扱います」
基礎演習などのゼミではフィールドワークを重視している。ゼミの最後には、全員でイスラーム系の料理

店に出かけて、現地の料理に舌鼓を打つのも楽しみの一つだ。

**徹底した平等主義。
イスラームは異教徒にも
寛容な宗教だった。**

新しく入学してくる学生には、一般的なイスラームの知識はほとんどない。マスクミがとりあげるテロや男尊女卑など、イスラームに対するイメージも固まっている。

「なぜこのゼミをとつたのかという質問をしたら、『私はイスラームについて知識が乏しく偏見を持っているので、勉強したいと思った』という学生もいました。それはうれしかったですね。ちゃんとしたイスラーム文化の深さ、歴史を知ってもらいたいからです」

世界のイスラーム人口は約14億人。多いのは中東と思われているが、トルコ・イランを入れて、やっと3億になるかどうか。国家として一番人口が多いのはインドネシアの約2



目と手のシンボルは中東の魔よけ。日本や東南アジアについてはほとんど報告がない邪視に対するものだ。学生がくれたイランのお土産、塩の塊。妖怪ジンは塩を嫌う。



イスラームの聖典クルアーン。

億人。アジアではその次はパキスタン。3位がバングラデッシュとインドで、インドも人口の13パーセントという数字を基礎にするならば、1億3千万人である。イスラーム教徒の多くが、実は南アジアに集中している。

ところでイスラームのいいところは？

「徹底した平等主義。マッカに巡礼するときは、基本的に白い服を着るということになっているが、それは貧乏人も金持ちも分からなくなる、という意味です。非常に厳格で厳しい宗教というイメージを私も持っていたが、向こうで宗教指導者に聞いたら、イスラームに絶対はない、といわれた。それはショックでした」

しかし、アルコールはケーキの香りも奈良漬、粕漬けも絶対に禁止。また豚肉だけでなく、アツラーの名前を唱えて屠殺していない動物の肉も一切食べてはダメ。

ただ例外規定があり、入っているのを知らなかつたり、これしか食べることがないなら原則的に許される

そうだ。1日5回の礼拝も、理由によつては一時猶予になることもある。「考え方として、死んだあとに天国に行けるかどうかがとても重要です。人間だから悪いこともするが、いいことのほうが多ければ天国に行ける。わりと単純で分かりやすい。しかも『剣かコーランか』という西欧が作ったイメージは誤りで、改宗を強制しなかつた。自由に暮らせる代わりに人頭税を払えばいいという、本当は寛容な宗教なのです」

たった百年ほどの間に、スペイン、インド亜大陸まで広がったイスラーム。近年では日本にも信者が少しずつ増えている。

ただ日本人にはあまり合わない宗教だと思うという、思いがけない発言もあった。

「キリスト教もザビエルの布教以来、日本の人口に占める信者の割合は増えていません。つまり日本人は、束縛されるのが嫌いなんですね。日曜に教会に行くとか、まして毎日5回礼拝するのはいやで、困ったときに助けてくれる現世ご利益的な宗教が

好き(笑)。なにしろ受験のときだけ天満宮に行く、そういう国民性ですから」

高校生の皆さんへ

ヨーロッパの列強が、それまで統治がゆるやかだったオスマン帝国を解体して、帝国領に今の国家の枠組みを作ってしまった。アラブ世界は本来国民国家の概念が成り立たないところなのです。

だから一般的に認知されているものをうのみにせず、現場に行つて自分の目で確かめなさいと言いたいですね。テレビなどマスコミからの情報だけではあまりに一方的です。

私がゼミ生をイスラーム系料理店に連れて行くのも、イスラーム教徒と交流できるから。その意味でも、うちの学部にはハーン先生のほか、マレーシア、イラン、インドネシアからの先生もいるので、イスラーム世界の人たちに実際に接することができる。ぜひ新しい世界観を学びにきて欲しいと思います。